



日本発達心理学会第37回大会 プレカンファレンス（公開シンポジウム）



公認心理師における「教育・発達」的 観点の意義と可能性

—その7：関係性で紡がれる子どもの育ち： 現場における質的アプローチから—

今を生きる子どもたちの育ちを支える環境として、家庭を土台に、保育や学校教育、発達支援や心理臨床といったさまざまな現場があります。本シンポジウムでは、現場を軸とした質的アプローチを通して、関係性の中で紡がれる子どもたちの育ちを、より多角的・立体的に理解していきます。

2026.2/23 (月・祝) 13:00-16:30

方法：オンライン開催（Zoomウェビナー）

参加費：無料 対象：どなたでも参加可能

＜話題提供＞

坂上裕子（青山学院大学）

見えづらい、家庭での親子のやりとりに迫る—その成果と臨床への応用可能性

松本博雄（香川大学）

質的アプローチは「子どもの育ち」にいかに貢献しうるか：幼児・児童の書き言葉の探究から

一柳智紀（東京大学大学院）

学校におけるつながりの中で学び、育つ

黒住早紀子（駒澤大学）

子どもたちが共に生きる上で必要な理解（障害理解も含む）とは

＜指定討論＞

尾見 康博（山梨大学大学院）

近藤 清美（発達と子育ての相談室こころころ）

日本発達心理学会会員の方は大会参加の登録をお願いします

*学校心理士(A)・特別支援教育士資格更新ポイント
認定専門公認心理師「テーマ別研修」登録

＜参加申し込み＞

定員：先着500名



<https://is.gd/eb9u2Q>

参加申し込みはZoom登録ページからお願いします。ご登録後、
参加用リンクが自動送信されます。

共催：「教育・発達」心理資格連絡協議会

お問い合わせ
「教育・発達」心理資格連絡協議会
事務局 office@kyouiku-hattatu.com